学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～

平成３０年８月２７日発行　№１６　文責　塩川小学校長　佐藤　寅記

二学期の最重点は、「あ・は・も」の「もくひょう」です。

二学期の最重点は、「目標を持ってやり遂げる子ども」の育成です。目標を達成する経験を通して、自己啓発の力を高めてまいります。

さて、目標を持つと、人はどうなるのでしょう。始業式では、「目標」を持って生活する大切さについて、私が感銘を受けた宮本延春さんの生き方を例えに話をしました（下記、丸囲みﾃｷｽﾄﾎﾞｯｸｽの内容）。

「目標」を持つと、中学校３年生で「オール１」の生徒でも、高校教師になることができるのです。目標は、粘り強い心となって夢を叶えてくれます。子ども達の自己実現を促進するエネルギー（**自己啓発の力**）となります。

塩中合唱部に教えていただきました

我々塩川小教職員は、子ども達に目標を持たせ、それを達成する経験を積み重ねていきます。そして、目標（目的、夢）を持つ大切さ、やり遂げることの喜びを教えていきたいと思います。

「漢字で書けるのは、自分の名前の４文字だけ。九九は２の段までしか言えず、英単語は『book』しか知らない。この人は、何才くらいの人だと思いますか？」

これは、宮本さんの中学１年生の時の学力の一例です。中学３年生の成績は「オール１」でした。

この人は、宮本延春という人で、中学校卒業後、見習い大工となりました。１７才頃フリーターとなりバンド活動に熱中しましたが、１８才で両親を亡くし建設会社に就職しました。

宮本さんに転機が訪れたのは２３才の時でした。夜間高校に通いはじめ、数学のテストで県№１になり、２７才で難関国立大の名古屋大に合格し、３７才で物理を教える高校教師となりました。

オール１の中学生が、このような人になれたのはなぜでしょうか？「目標（目的）を持つこと」と宮本さんは言っています。

２３才の時、アインシュタインのビデオを見て感銘を受け、物理を学びたいという目標を持ち、「小学３年生のドリル」を買って猛勉強をはじめたことが転機になったと話しています。

※　子どもは、誰しも可能性とよさを持っています。それに気づかせたり引き出したりする営みが教育です。教育の素晴らしさはここにあります。「もくひょう」をキーワードに、充実した教育活動を工夫してまいります。

「夏休み中のご支援、ご協力に感謝いたします。

◆プール監視（見守り）、ありがとうございました。

今年は猛暑続きでしたが、そんな中、子ども達の安全を見守っていただきました。お陰で、１２日間、午前と午後１８回の開放で、延べ１３６４人（１回平均７６人、１日平均１１４人）の子ども達がプールを訪れ、健康の増進と泳力の向上をめざしていました。

◆夏休み学習会、合唱指導、本の寄贈など、ご支援ありがとうございました。

１４回あった夏休み学習会には、１８名が参加し、富子先生と智美先生のご指導をいただきました。Ａさんは、繰り下がりの引き算を完璧にし、Ｂさんは、分数や小数の計算のミスを少なくするなど、目標を持って努力していました。

合唱練習では、安部先生が毎日ピアノ伴奏してくださいました。保護者の方からは、本を寄贈いただきました。

子ども達は、花壇の水やりも、責任を持ってていねいに行ってくれました。

教育環境の改善！

２階のオープンスペースは、教室に生まれ変わりました。二学期からは、なかよし２組の教室として使用します。各教室背面には、掲示スペースをつくっていただきました。

一昨日は、ＰＴＡ奉仕作業で、校庭の除草や窓磨き、側溝の泥上げをしていただきました。整った環境の中で、さらによい教育を展開してまいります。

新しい教室（左）と、PTAの皆さまによる奉仕作業（右）